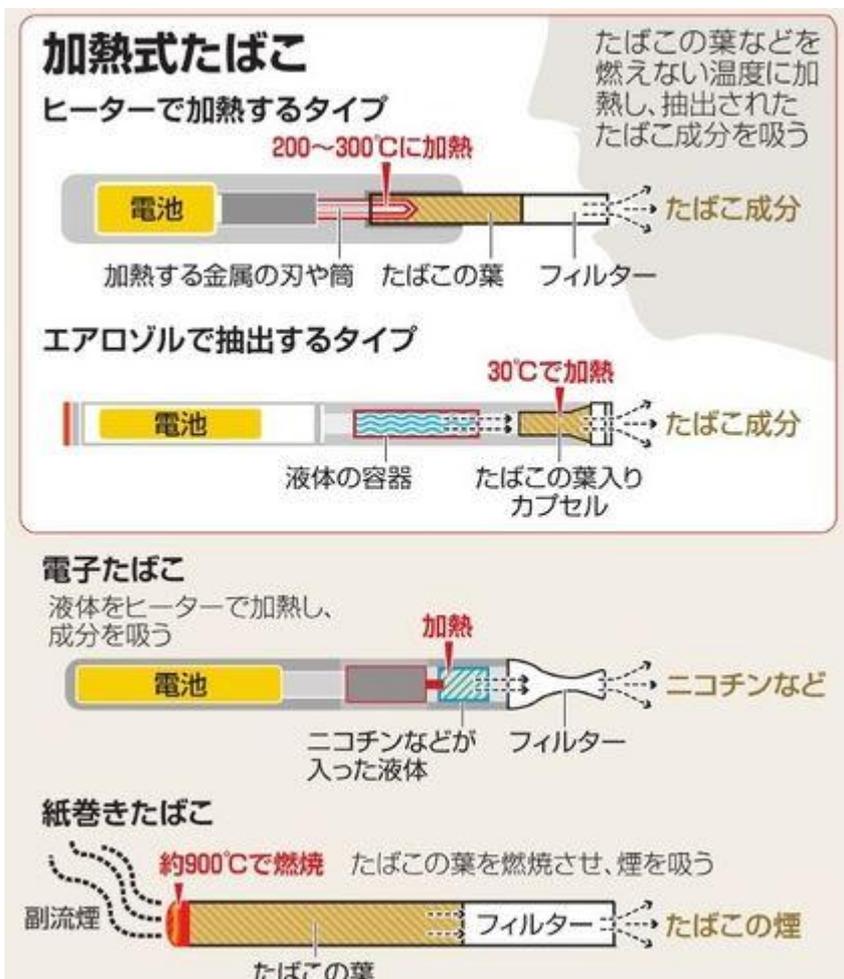


週刊 タバコの正体



朝日新聞 DIGITAL から

	新型タバコ (μg)	紙巻タバコ (μg)	比率 (%)
ニコチン	301	361	84
ホルムアルデヒド	3.2	4.3	74
アクロレイン	0.9	1.1	82
ベンズアルデヒド	1.2	2.4	50

ホルムアルデヒド:発がん物質、アクロレイン:劇物、ベンズアルデヒド:香料等に使用される刺激性物質

武田薬品「武田薬報 Web」から

加熱式タバコは、煙やニオイが少ないので、有害成分も健康被害も少ない印象をもっていますが、上の表をみると、ニコチンやホルムアルデヒドなどの有害成分は紙巻きたばこより少ないとは言え、ほぼ同程度含まれています。ということは、決して健康被害が少ないとは断言できません。

外見上の喫煙イメージがスマートになっても健康被害がなくなるわけではないので、「加熱式タバコなら大丈夫」なんて言う事はありません。

火を使わない「加熱式たばこ」ってどんな仕組みになっているのでしょうか。

名前のおとおり電池でタバコの葉を加熱するようにできていて、燃やさないなので煙はできません。しかし熱せられたタバコの成分は煙のような蒸気となって吸い込まれる仕組みとなっています。左図にあるように、タバコの葉をヒーターで直接加熱するタイプと、加熱した水蒸気(エアロゾル)をタバコの葉に通過させるタイプが販売されています。

ところで、「電子たばこ」と呼ばれるものもあります。こちらはタバコの葉を使わずニコチンの入った液体を扱うので、医薬品などの安全性に関する法律(薬機法)によって規制され日本では販売されていません。

ニコチンは化学物質として毒物に指定されているほど神経毒性の強い猛毒なので、法律で販売が規制されるは当然です。なのに、タバコの葉に含まれるニコチンは販売しても良いのはおかしいですよ。

さて、煙ではなく蒸気を吸い込む

産業デザイン科 奥田 恭久